

新年おめでとうございます～子年～



◇ 令和2年に年が改まり、3学期が無事スタートしました。今年の干支は子年(ネズミ)です。子年は新しい運気のサイクルの始まりであり、植物に例えると成長に向かって、種子が膨らみ始める時であると言われてい

ます。未来への大いなる可能性を感じさせる年に、何事にも全力で取り組み、大きく成長できる一年にしたいものです。また、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催される年でもあります。日本開催のビッグイベントに喜びを感じながら、スポーツの魅力を堪能できるよい機会でもあります。

◇ 3学期はあっという間に過ぎてしまいます。今年度のまとめをする学期ですが、やり残したことを取り返す学期がこの後にはありません。授業でのまとめと同じです。特に意識してほしいのは、授業の進度です。やり残すことがないように先を見通し、計画的に進めるよう心掛けてください。

◇ 各学校では教育課程編成の真っ只中と思いますが、小学校は令和2年4月から新学習指導要領が完全実施となり、中学校は令和3年度からになります。新学習指導要領のねらいや内容に即し、自校の特色を生かした教育課程を編成すること、そして、充実した教育活動が展開されることを期待しています。

授業づくりのために！

※「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3観点からまとめたものです。

毎日の「授業づくり」に参考にしてください。

◎主体的な学び……学習活動を見通し、振り返り、課題を解決していこうとすること。

□子どもが思考や活動する時間を十分に確保すること。

□誰一人とも授業から落とさないこと。

□子どもが45分間(50分間)を通して、夢中になって学ぶ姿が見られること。

◎対話的な学び……学び合い等、他者と協働することによって、多様な見方・考え方を学ぶこと。

□友達の考えや意見に触れ合う場面を設定すること。(ペアやグループでの学習)

□意見や考えのやりとりを双方向にすること。

◎深い学び……見方・考え方を働かせて、自分自身の課題を見つけること。

□子どもの意見や考えをもとに、解決過程を練り上げる場面を設定すること。

□問い返しなどにより、考えを広げたり深めたりする場面を設定すること。

□発展的課題(ジャンプ課題)にチャレンジさせる場面を設定すること。

先輩の教えから

今から10数年前に先輩の校長先生から頂いた『ことば集』の中に、次のことばが記載されていました。

今、学校に求められている「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりのために、昔も今も基本は通じるところがあるものです。

当たり前のようだが

子どもがいてはじめて教師が存在する

当たり前のようだが

教育の営みは 考えを引き出し

手を貸すことである

教えることは しっかり教える

その子の良いところを見つけ引き出す

その子の活動に手を貸す

これが教師

一人一人の子どもに

生きる力 つくり出す力をつける

これが教師

一人一人の子どもの願いを

一人一人の親の願いを

かなえてやろうと努力する

これが教師

そのために

子どもの成長を確かめながら

何をどう教えるか 何をどう引き出すか

いつ どのように手を貸すか

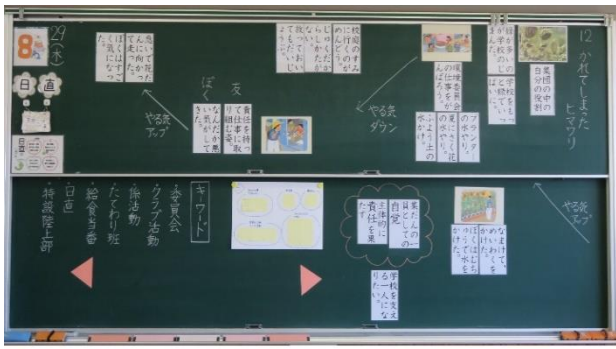
こう考え実践していくのが

教師道である



学校訪問から（板書と学級掲示）

学校訪問では大変お世話になりました。各学校とも新たな「授業づくり」に向けて、学校全体で取り組んでいる様子がうかがえました。訪問した中での実践例を、板書と学級掲示について紹介します。



◇ S小学校の板書例（道徳の授業から）

上下可動式の黒板を使用しての道徳の授業でした。本時のねらいから、授業を進めていく中で子ども達の気持ちや考えの変化などが、計画的に配置されており、構造的な板書計画に「素晴らしい」の一言でした。

（左の写真は、授業の後半の板書です）

※ポイント・・・板書において最も重要なことは、1時間の学習の足跡が表現されるようにすることです。「授業を

終えたとき、どんな板書が仕上がるか」「どの場面で、どのように板書するか」ということを想定して、構造的な板書づくりを心がける必要があります。

◇ O小学校の学級掲示の例

教室の背面と側面を利用して、学習コーナー、作品コーナー、子どもの成長がわかるコーナーなどを分類して、掲示されていました。計画的にしかも整然と掲示された作品や学級の歩みのわかる写真や資料には、感動せずにはいられませんでした。



※ポイント・・・環境は子どもたちの学習に大きく影響を及ぼします。雑然とした教室であれば子どもの思考も雑になり、整った教室であれば子どもたちは冷静に思考できるようになるものです。

つぶやきを拾い授業展開に生かす！

※子どもの何気ない一言から！



東井義雄氏（「村を育てる学力」から）

「子どものつぶやきが聞こえる。それは『小学校一級免許状』よりも、もっと大切な免許状なのだ。」

「子どものつぶやきが聞こえなくなっている先生」は「先生の資格があるとは言えない。」

教室の中には、「なるほど」「どうしてかな？」「どうしよう」など、ひらめいたことを周りを気にせずにつぶやく子どもがいます。それらの内容は、意図して発言したときと比べるとかなり本心に近いものであり、つぶやきが発せられるのは、その子どもが主体的に関わっている証だと受け止めたいものです。

つぶやきが聞かれる学級は、子ども達が伸び伸びして、学びにも深まりを感じます。

そのためには、教材研究によって、「こんなつぶやきが出たらいいなあ」「こんなつぶやきを出させたい」と想像してみることで、ここで子どもはつまづくのではないか、ここで計算ミスをするのではないか、この実験ならきまりを発見できるのではないかなど、様々な子どもの反応を予想し授業展開を考えていることが、上手につぶやきを拾い、授業展開にも生かせることにつながってきます。

箱根駅伝区間新記録（相澤選手・阿部選手）おめでとう！

今年の第96回東京箱根往復駅伝競走（箱根駅伝）において、須賀川市出身の相澤晃選手（東洋大4年）が2区で1時間5分57秒、7区で阿部弘輝選手（明治大4年）が1時間1分40秒の区間新記録を出し、正月早々2日連続の快挙となるうれしいニュースを届けてくれました。さらに相澤選手は最優秀選手に贈られる「金栗杯」を受賞しました。2人は中学生から一緒に練習している間柄であり、次の目標は、東京オリンピック出場を目指しているとのこと。ぜひ出場権を獲得し、活躍する姿が見られることを願っています。2人の活躍を誇らしく感じる事ができた新年の幕開けに感謝の一言です。